

## ともにつむぎだす ~希望の中で~

「キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、  
平和の福音を告げ知らせられました。」—エフェソの信徒への手紙 2章17節—



## 「神が創造された 光さす方向を歩む」

日本基督教団藤沢教会附属みくに幼稚園

園長 尹 卿惠

# 部会だより

キリスト教  
保育連盟  
神奈川部会

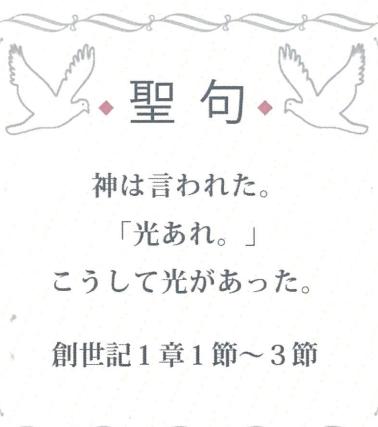
2024年2月29日  
第144号

神は言われた。

「光あれ。」

こうして光があった。

創世記1章1節～3節



クリスマスを迎えた教会暦では新しい年が始まりました。今年こそ「平和」でありますように、世界中の子どもたちが安心して朝を迎えられますようにと「希望」を抱いて祈ります。

今私たちが生きる現代社会は、環境破壊による気候変動、貧困、感染症、戦争、人権侵害、教育格差、いじめ、孤立・等の問題が深刻化しています。世界が直面するこれらの課題を取り組む、持続可能な開発目標SDGsが、二〇十五年国連において採択され、「地球上の誰ひとり取り残さない」とを理念とし、二〇三十年を目標に日本でも広く取り組まれています。

当園では、二十二年度の秋に、コロナ禍で開催できなくなつた教会と合同のバザールを、これを機会に見直し、小規模で温もりのあるバザー「マルシェ」として再出発しました。海に近い藤沢地域に住んでいる子どもたちに、身近な自然環境の大切さ、「海洋ごみの問題」を、ある保育者が、絵本を通して伝えたところ、それがきっかけになつて、保護者会でも「マルシェで、海をテーマにした工作ワークショップをしよう!」と、親子で何度も海に行つてシーグラスを集め、海の生物をかたどった消しゴムスタンプを作り、「マルシェ」当日は、シーグラスペンドントと、布バッグにスタンプを押し、エコバッグを製作して、みんなで海の環境を考える時がもてました。一人の保育者が、始まつた取り組みが、職員、保護者に共感を生み、子どもたちと卒園生や地域の方にも広がっていました。

この「誰ひとり取り残さない」理念は、あの九十九匹の羊と一匹の羊の例え話を思い起こします。災害や戦争で犠牲者が何人という報道を聞く時、その人数の多さに慣れてしまふ自分に危うさを感じる時があります。たつた一人の命が軽視される世界であつてはいけません。身近なことから考え、祈り、行動し、繋がつて行きたいと思いまます。

当園では、二十二年度の秋に、コロナ禍で開催できなくなつた教会と合同のバザールを、これを機会に見直し、小規模で温もりのあるバザー「マルシェ」として再出発しました。海に近い藤沢地域に住んでいる子どもたちに、身近な自然環境の大切さ、「海洋ごみの問題」を、ある保育者が、絵本を通して伝えたところ、それがきっかけになつて、保護者会でも「マルシェで、海をテーマにした工作ワークショップをしよう!」と、親子で何度も海に行つてシーグラスを集め、海の生物をかたどった消しゴムスタンプを作り、「マルシェ」当日は、シーグラスペンドントと、布バッグにスタンプを押し、エコバッグを製作して、みんなで海の環境を考える時がもてました。一人の保育者が、始まつた取り組みが、職員、保護者に共感を生み、子どもたちと卒園生や地域の方にも広がっていました。



靈がその水の面に働きかけていた」と訳されています。この「靈」は、神の「息」を意味し、「働きかけていた」という動詞は、鳥が羽をバタつかせるありさま「暴風雨のような海」を表しているのだそうです。神は、闇から光を簡単に創造されたのではなく、ちよつと意外ですが、必死に息を吹きかけ、バタバタと働きかけ「光あれ」と、闇から光の方向を創造されました。そして、その光は、「誰ひとり取り残さない」ものとしてこの世を照らし始めたのだと信じます。「神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された(ヨハネによる福音書三章十六節)」のですから、わたしたちも神様に倣つて主と共に隣人と共に、光さす道を歩んでまいりましょう。

# イースターのまもり方

## イースターの守り方

Y M C A マナ保育園

園長 迫弓子



### 四年ぶりの卵作り

戸塚ルーテル教会附属幼稚園

主任 藤村みな

とが出来ました。もちろん、そのあと卵探しもお楽しみの一つです。

「卵は一人一つ」「卵の隠し場所を教えない。(探す楽しみがなくなるので)」「見つけた卵は大切に鞄に入れる。」その約束をした後、各クラスに分かれての卵探しがスタートしました。

「うまくかけるかなー。」「かわいいのできたよ。」子どもたちがゆで卵にクレヨンで描いた絵が食紅の液に浸すと浮かび上りました。コロナ感染防止のために取りやめていた活動の一つ、イースターの卵作りを今年は四年ぶりに再開し、保育者・子ども共にドキドキワクワクしながら行つたひとときでした。コロナ禍は保育者が食紅の液で色付けしだけのものでしたが、今年こうしてそれぞれ思い思いの絵を描いて卵作りをすることによって、子どもたちはイースターを楽しみに待ち、イエス様の復活を心から喜べる気持ちがたくさん湧いてきたのではないでしょうか。

みんなで作ったその卵を一人一人捧げてのイースター礼拝。イエス様がみんなのために復活なさつて嬉しいね:そんな気持ちで礼拝を守るこ



Y M C A マナ保育園は八景島シーパラダイスの近くにあり、生後三ヶ月から就学前まで、約七十人の園児が通つている保育園です。

イースターは入園進級の時期と重なることが多く、初めて礼拝に参加するという子もいるため、子どもたちに「礼拝って楽しい」と感じてもらえるよう、クラスごとに分けて、発達に合つた礼拝を行つています。

0歳児は讃美歌を歌い、「神さま、ありがとうございます」「嬉しいね」と言いつつ、小さな手でパチパチと拍手をして終わります。二、三分の短い礼拝ですが、興味津々に輝く瞳は神さまと出会つた証しであると感じます。

二、三歳児は讃美歌の後、絵本などでイースターを伝え、感謝の祈りを捧げます。初めて「アーメン」と言う子もいるので、「アーメン、アーメン、アーメン…」と大合唱になる姿も、この季節の喜びです。

四、五歳児は牧師と一緒に、聖書の御言葉を聞き、祈ります。牧師の問い掛けにもしっかりと答える姿は、

これまでにいただいてきた恵みの表れだとうれしく思う瞬間です。

各クラスの礼拝が終わると、園庭でエッグハントが始まります。カラフルな卵(容器)が、園庭の至る所に置かれて、それだけでもワクワクします。卵の中には花の種が入ついて、子どもたちはそれぞれの鉢に種を蒔き、水を与えます。その後は毎日、鉢を愛で「芽が出た」「背が伸びた」「花が咲いた」と喜びます。

花が咲く頃には、「花の日礼拝」があるので、園児が地域の皆さんに感謝の気持ちを添えて、咲いた花を届け、毎年、交流をしています。花が咲く頃には、「花の日礼拝」があるので、園児が地域の皆さんに感謝の気持ちを添えて、咲いた花を届け、毎年、交流をしています。



## いつもある喜びの

### 中の一つとして

関東学院六浦こども園  
園長 鈴木直江

毎年、イースターというこの大切な出来事をどのように子どもたちに伝えようかと思い巡らせます。今年は四月九日でした。新入園の子どもたちは園に来ることで精一杯です。

イースターは、三月下旬から四月中旬に迎えることが多いので私たちの園ではイースターカードを子どもたちに配ることにしています。カードの絵（たまごやひよこなど）を見ながら子どもたちと小さなおはなしをしています。可愛いカードを眺め神さまがみんなを愛して守つてくださっていることを伝えると、子どもたちは嬉しいという表情になるのです。何かを感じているのでしょうか。

年長の子どもたちにクリスマス（誕生）から私たちのために十字架にかかりて死んでくださったこと、三日目に復活されて天に昇られたことを話すこともあります。

『イースター』という言葉を何度も聴いている子どもたちですので、初めは「知ってる、知ってる」と言っていますが、段々とその顔が真剣

になるのを私は幾度も経験しています。イエスさまが自分の為に死んでくださったということを頭で理解しているのではなく、心で感じているのでしょうか。そして、それは理屈ではなく、神さまの愛をありのまま受けことなのでしょう。

子どもの心は柔らかくてしなやかですね。この不思議な出来事を理屈でなく受けとめられる子どもの心を大事にしながら、神さまの愛の種をこれからも私たちは蒔いていきたいと願っています。

暖かな日差しが園舎を包むころ、今年もイースターをお迎えします。ついこの間クリスマスが終わつたばかり。ページェントの帰り道の、園庭のイルミネーションがまだ心に残っています。

春は地中に埋まつていた木の芽、草の芽が一斉に芽吹き、鳥の囀りも盛んに聞こえてきます。春はイエスさまのご復活をお祝いする希望の季節です。私たちの園では、百合の花で飾られたホールで、年中組・年長組の子どもたちが各学年ごとに合同で礼拝をおこないます。おうちの方も参加してくださいます。礼拝の中で、私たちのために復活されたイエスさまは、いつも私たちのそばで私たちのことを支え、見守つてくださっていること、イエスさまに感謝し、お友だち、おうちの方、そして皆さんを大切にすることを伝えます。年少組は各クラスごとにお部屋で、先生からイースターのお話を聞きます。つい数週間前に入園したばかりの子どもたちにとつて、イエスさまのご復活は少し難しいかもしません。



## 希望の光と共に

恵泉幼稚園  
園長 下里由香

暖かな日差しが園舎を包むころ、今年もイースターをお迎えします。

春は地中に埋まつていた木の芽、草の芽が一斉に芽吹き、鳥の囀りも盛んに聞こえてきます。春はイエスさまのご復活をお祝いする希望の季節です。私たちの園では、百合の花で飾られたホールで、年中組・年長組の子どもたちが各学年ごとに合同で礼拝をおこないます。おうちの方も参加してくださいます。礼拝の中で、私たちのために復活されたイエスさまは、いつも私たちのそばで私たちのことを支え、見守つてくださっていること、イエスさまに感謝し、お友だち、おうちの方、そして皆さんを大切にすることを伝えます。年少組は各クラスごとにお部屋で、先生からイースターのお話を聞きます。つい数週間前に入園したばかりの子どもたちにとつて、イエスさまのご復活は少し難しいかもしません。

そこで先生方は絵本や紙芝居を使ってお話をします。「春になり、暖かいおひさま、お庭のお花、嬉しそうな動物たちを、ご復活されたイエスさまと共に、たまごやイースターやさぎを飾つてみんなでお祝いしましょう」子どもたちは目を輝かせてお話を聞いています。

礼拝後には「イースターおめでとう」と書かれたかわいらしうさぎのカードをいただきます。コロナ前には、ゆで卵をかわいい袋に入れてエッグハンティングをして、おうちにお土産として持ち帰つたりしていました。

平穏な生活が続き、子どもたちの笑顔が絶えることのないよう、これからもイースター礼拝を守つてまいります。



# 役員会報告

書記 酒井 大志

役員会は九月十一日(月)、十一月六日(月)、十一月六日(水)クリスマス礼拝後、十一月二十六日(火)設置者・園長・主任研修会後、一月二十一日(月)に開催されました。

主なことを報告いたします。

## ◆夏期講習会

八月二十二日(火)、関東学院大学横浜関内キャンパスにて開催されました。久しぶりの対面での夏期講習会は、開会式、永年勤続表彰、久米百合さんをお招きし「スペルコンサート」が行われました。

一四一人が参加。

## ◆中堅保育者研修会

九月六日(水)、戸塚ルーテル教会附属幼稚園にて行われました。「元気をもらえる!情報交換会」とのテーマで四グループに分かれて有意義な情報交換の場となりました。

九園・二十五人が参加。

## ◆設置者・園長・主任研修会

十二月二十六日(火)に白百合光の子幼稚園にて行われました。七グループに分かれ、それぞれの思いを語り合い、今後の保育のヒントを得る貴重な時間となりました。

二十四園・三十五人が参加。

## ◆保育環境研修会・新任保育者研修会

二〇二四年一月一〇日(水)に認定こども園関東学院のびのびのば園にて一つの研修会が合同で行われました。関東学院のびのびのば園の先生に教育の理念や園庭改造までのプロセスを伺い、園舎園庭を見学しました。その後、グループに分かれての時間でも、活発な意見交換の場がもたらされました。

環境研修五十四人、新任研修十六人の合計七〇人が参加。

## ◆クリスマス礼拝

十一月六日(水)、清水ヶ丘教会にて日本基督教団白教会牧師の古旗誠先生よりクリスマスマッセージをいただきました。その後、浅野記念御濠端幼稚園と認定こども園宮の台幼稚園の先生方に楽しいクリスマスソングをご紹介いただき、恵み

のうちにクリスマスの喜びを分かち合いました。

各園からのクリスマス献金一七万六千四百二十円は、国連難民高等弁務官事務所(国連UNHCR)、国境なき医師団、女性の家サークル、バット記念ホーム、キリスト教保育連盟災害義援金、横浜訓練学院にお送りしました。

三十一園・一四九人が参加。



◇発行日 2024年2月29日

◇編集者 神奈川部会 広報担当  
和泉保育園/平本麻美

七里が浜楓幼稚園/高橋栄

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 七里が浜楓幼稚園



## 編集後記

新年の喜びをかみしめる間もなく日本を襲った能登地震。神の御業の下で人々の心と力がこころを温めます。子ども達は友達の中で従来の元気いっぱいを取り戻しながら楽しみを見出しています。

144号は明るい兆しの中で心躍る春の訪れを運んでくる、子ども達の大好きな「イースター」について執筆頂きました。各園のイースター保育に活かされると嬉しいです。お忙しい中にご協力を頂きました諸先生ありがとうございました。